

市民公開講座

「がん」で活かす社会づくり

～みんなで将来を語り合おう～

と き **2019年9月7日(土)**
15:30～17:00(受付15:00～)

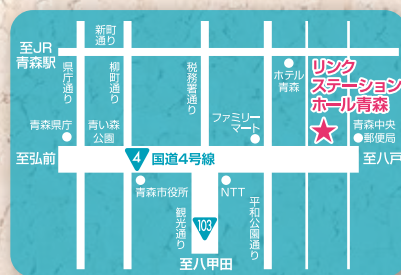
入場無料
事前申込不要

ところ **リンクステーションホール青森**
1階大ホール(第2会場)(青森市堤町1丁目4番1号)

座長

佐藤 温先生
(弘前大学大学院医学研究科 腫瘍内科学講座 教授)

桜井なおみ氏
(一般社団法人 CSRプロジェクト)



講演1 学校で始まったがん教育

西森 久和先生
(岡山大学病院 血液・腫瘍内科)

三好 綾氏
(NPO法人 がんサポートかごしま)

講演2 職場から始まったがんとの共生社会

高橋 都先生
(国立がん研究センター・がんサバイバーシップ支援部)

桜井なおみ氏
(一般社団法人 CSRプロジェクト)

市民公開講座
アンケートへ
ご協力ください



主催／一般社団法人 日本がんサポーターブケア学会 共催／弘前大学大学院医学研究科 腫瘍内科学講座
後援／青森県 協力／リレー・フォー・ライフ・ジャパン青森実行委員会

● お問い合わせ ●

第4回 日本がんサポーターブケア学会学術集会運営事務局 株式会社インタープラン・コーポレーション
TEL:03-5489-4910 FAX:03-3461-8181 E-mail:jascc2019@inter-plan.co.jp 営業時間／9:30～17:30(土・日・祝を除く)

【同日開催】
リレー・フォー・ライフ・ジャパン2019青森

9月7日(土)～9月8日(日)
正午12:00 正午12:00 **24時間通し**

青森県立保健大学 グラウンド(青森市浜館)



さとう あつし

佐藤 温

第4回日本がんサポーターティブケア学会
学術集会会長

弘前大学大学院医学研究科 腫瘍内科学講座 教授



がんを抱えている方が増えています。がんで命を落とされる方が増えています。大切なひとががんになった方、そして大切なひとががんで亡くられた方が増えています。ご存知の通り青森県は全国でもそのトップを走っています。では、私たち青森県民は何をすべきなのでしょう。私の答えはひとつです、**しあわせになること**です。がんと診断されて、つらい治療を受けて、あるいは大切な方をがんで失って、それでも**しあわせになれるのでしょうか**。私は、医師になり、がんの専門医として30年が過ぎました。医師になって本当に大切なことは、すべてがんを抱えた患者さんたちが教えてくれました。そして、**がんを抱えたからこそ感じた本当のしあわせ**があることも教えてくれました。でも、一方でがんを抱えたことで差別を受けることもあります。もしかすると、がんを抱えた患者さんを負け組と捉える社会こそが悪いのではないのでしょうか。ひとは誰しもが限りある時間の中で物語りを紡いでいきます。

がんは物語りの結末ではありません、あくまでも物語りの一部なんです。
大切なのはだれしもがどのように生きるのかです。

「いのち」を大切にすること、それが社会に広がれば、社会はしあわせになります。今回のテーマは「**がんで活かされる社会**」です。誤植ではありません。私たちはがんを忌み嫌うばかりで物事の本質を見失っているのかもしれない。「がん教育」と「就労」の2つの側面から議論してみたいと思います。がんで悩んでおられる方、大切なひとががんを患っている方、今後の社会を考えたい方、今回の市民公開講座の対象は住民全員です。

会場は大きいのでごぞつてみんなで来てください。

がんで

ケア

今回は、子ども達への「いのちの授業」についてお話させていただきます。子ども達に伝えていること、家族の立場になった子ども達はどうなことを考えているのか、語り手が伝えるときに気を付けていることはどんなことなのか等をお伝えします。お会いできることを楽しみにしています。

たかはし みやこ
高橋 都



国立研究開発法人
国立がん研究センター
がん対策情報センター
がんサバイバーシップ支援部

昭和59年岩手医科大学医学部卒業。卒業後10年間一般内科臨床に従事したのち、東京大学大学院医学系研究科修了。同大講師、UCLA客員研究員、獨協医科大学公衆衛生学准教授を経て、2013年4月より現職。一貫して、がん診断をうけたご本人やご家族が日常生活の中で直面するさまざまな課題について、研究と啓発活動に取り組んでいる。

がんとわかったあとも、毎日の暮らしは続いていきます。社会は「がん」をどのように見るのでしょうか。この数十年で変わったこと、まだ変わらないことを、ご一緒に考えたいと思います。

ふたりに1人ががんになる時代、積極的に「がん」について知っていただき、自分のために「がん」になったご家族、お知りあいの方々のために今日からできることをみなさんと考えてみたいと思います。



にしもり ひさかず
西森 久和

岡山大学病院 血液・腫瘍内科

平成13年岡山大学医学部卒業。呉共済病院、がん研有明病院で研修の後、岡山大学病院血液・腫瘍内科、輸血部、腫瘍センターを経て岡山大学大学院修了。がんプロフェッショナル養成プラン助教の後に現職。造血幹細胞移植、血液腫瘍、原発不明がん、肉腫の診療に従事。がん診療をする立場から「がん教育」の重要性を感じ、岡山県内の中・高等学校での「出前授業」に取り組んでいる。

さくらい

桜井 なおみ

一般社団法人CSRプロジェクト

東京生まれ。大学で都市計画を学んだ後、卒業後はコンサルティング会社にてまちづくりや環境学習などの仕事に従事。

2004年 乳がん罹患後は、働き盛りで罹患した自らのがん経験や社会経験を活かし、小児がんを含めた患者・家族の支援活動を開始、現在に至る。一般社団法人CSRプロジェクト代表理事、キャンサーソリューションズ(株)代表取締役社長として活動。第12回・第13回弘前アップルマラソン 完走。

頼る勇気と
頼られる準備

みんなできてね

将来を一緒に
考えましょう

がんになったときの気持ち、なってからの気持ち。私の気持ちの中にどんな変化があったのでしょうか。そして、私の周りの社会はどのように変わってきたのでしょうか。「がんとの共生の未来像」を皆さんと一緒に考えてみたいです。

待ってる
にや~

同日開催

市民公開講座のあとは...

リレー・フォー・ライフ 2019 青森

きくち まさひこ
菊地 政彦 リレー・フォー・ライフ・ジャパン青森 実行委員長

私は15年前に胃がんの手術を経験し、妻は5年前に乳がんの手術を経験し現在も治療中です。がんの発見や再発、転移の告知を受けた患者さんと家族は強いショックを受け日常生活を送るのが困難な状態に追いやられることが多いそうですが、私たちもそうでした。

リレー・フォー・ライフは、がんを経験した方と家族、その方々を支える仲間たちが一緒にチームを組み、夜を明かします。私と妻は青森会場の第一回目から参加しています。その場所その時間において、感情体験を語り合う毎に、同情の枠を超え「同苦」し合う。そこにいる仲間みんなとレジリエンスを高め、人生の意味を見いだすことがリレー・フォー・ライフだと確信しております。青森市でのリレー・フォー・ライフは第5回となります。会場は青森県立保健大学のグラウンドで9月7日(土)の正午から8日(日)の正午まで行われます。多くの皆様の参加をお待ちしております。

がんに関わる方も
そうでない方も

笑う勇気

がんで
伝えたい

